

2021年4月7日

建設通信新聞

第8回都市・まちづくりコンクール

最優秀賞に宮西さん

総合資格（東京都新宿区、岸隆司社長）などが主催する第8回「都市・まちづくりコンクール」の最終審査を経て、最優秀賞に信州大学・宮西夏里武さんの「半鐘響く街、よみがえり児童館—千曲川水害後1年目の街の修復風景の集積による児童館再生—」が輝いた。

同コンクールは、社会構造の変化、少子高齢化、災害対策などにより、常に変更を求められる都市・まちづくりに取り組む学生の育成を図り、学生たちが生み出した景観や創造価値と、作品に込められた熱意を評価するとともに、他学との交流を通じて、さらに視野を広げてもらうのが狙い。

今回の課題は「響」。この意味を幅広く捉え、形態や配置、仕組みなどを包含する都市デザイン、建築、ランドスケープデザインの提案を募集した結果、全国から290

最優秀以外の受賞者は次のとおり（敬称略）。

▷優秀賞=「海と共に生きる—魅力資源と防災の活用におけるエコロジカルな街への復興計画—」小野寺湧（長岡造形大）、「マチナカホワイエ 文化団欒の街・吉祥寺」鎌田南穂（東京大）。

▷小林英嗣賞=「Hverdag med "Hygge" ヒュッゲのある日常の生活」富田真央、石村拓也、木村聰太、藤村稚夏、中原正隆、堀江きらら、志賀あゆみ。

▷小林正美賞=「高円寺再反転～街の雑然性と規則性から創り出す高密度街区の再編計画～」山田康太（東海大）。

▷江川直樹賞=「数奇間に暮らす」近重慧、友光俊介さん、松林大地（早稲田大大学院）。

▷角野幸博賞=「サカリバヤクバー包摶と共存のパブリックライフ」平田颯彦（九州大）。

総合資格



点の応募があった。

総合資格学院新宿校で3月12日にオンラインで行われた本選コンクールに事前審査を通過した32作品が残った。

ここで、1次審査を経て、8作品が最終審査に進んだ。審査には、日本都市計画家協会会長の小林英嗣北海道大名誉教授、岸社長ら11人の審査員が当たった。

▷北川啓介賞=「「余白」～トポフィリアとコンポジションによる避難動線の確保～」竹内勇真、前村真太郎、堀江僚太、奥田裕貴、笛川智哉（日本福祉大）。

▷柴田久賞=「ゆとり荘」井本圭亮（九州大）。

▷中島直人賞=「都市の脈動をつまむ—アクリティビティの整頓による都市の変容録—」渡邊麻里（明治大）。

▷中野恒明賞=「かさなる五感 辻からまちへ」向井菜々（福井工業大）。

▷有賀隆賞=「Urban Village Building "S" 一働き開きによる新しい共同体の構想—」宮澤哲平（法政大）。

▷猪里孝司賞=「花渦—イキバのない花たちの再資源化場—」櫻田留奈（立命館大）。

▷総合資格賞=「邂逅する生命体—特異な谷地形を模した渋谷文化の維持・発展を促す商業施設—」横山達也（芝浦工業大）。